

音楽と絵画のかかわり

組曲「展覧会の絵」を教材に ♪中3 音楽(鑑賞)♪

ツール・機能: インターネット プレゼンテーションソフト
分 類: 調査活動 協働活動

ICT活用のねらい

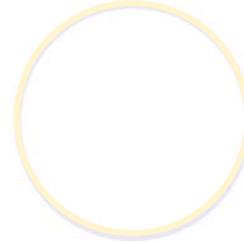
- *1人1台端末を活用することで、情報収集などの調査活動を容易に行うことができます。
- *1人1台端末を活用することで、音楽を何度も聴き確かめたり、音楽と絵画を対応させたり比較したりしながら鑑賞することができます。
- *1人1台端末を活用することで、本題材に関する自分の考えや価値観について、音声と画像を用いて説明することができます。

学習の流れ(全4時間)

♪ 本題材は、音楽の特徴と絵画の特徴との関わりについて、それぞれの見方・考え方を働かせながら解釈し理解することにより、組曲「展覧会の絵」のよさや美しさを味わって聴くことができるようにすることをねらいとしています。

導入	展開	まとめ
<ul style="list-style-type: none">・4曲の「プロムナード」を比較聴取し、それぞれの音楽の特徴を理解する。 <p>・ガルトマンが描いた絵の中から、4曲の「プロムナード」の前後に当てはまる絵を予想する。</p> <p>ここで活用します!</p> <p>※ここでは、ガルトマンが描いた10枚の絵の中から、5枚提示しています。</p>	<ul style="list-style-type: none">・前時で予想した絵からどのような音楽が作曲されたのか予想する。・自分が予想した音楽と、実際の音楽を聴き確かめる。・5曲の音楽と5枚の絵画の特徴を関わらせながら聴取する。 <p>ここで活用します!</p> <p>※ここでは、「グノーム」「古城」「ビドロ」「テュルリー」「卵の殻をつけた雛鳥のバレエ」の5曲を取り上げています。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ムソルグスキーとガルトマンの関係性や作曲された時代背景について学習する。・組曲「展覧会の絵」を全曲鑑賞する。・作曲家ムソルグスキーがどのような思いで作曲したのかを想像し、「音楽と絵画のかかわり」について自分の考えをまとめ、発表する。 <p>ここで活用します!</p>

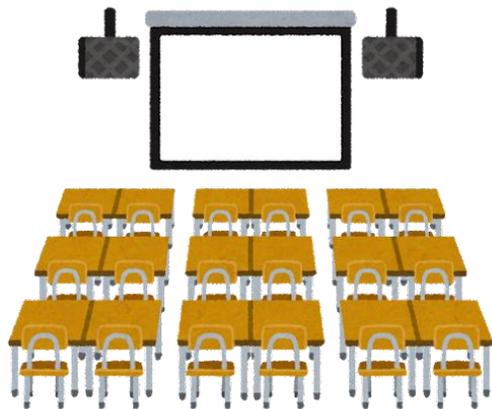
ここがPOINT



♪ 導入での活用場面〔絵の提示〕

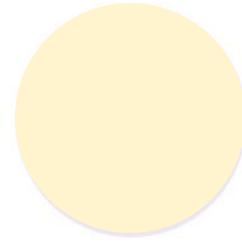
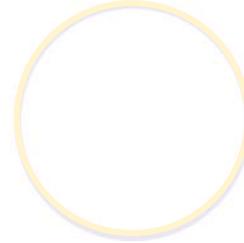
- ・ガルトマンの絵の特徴と音楽の特徴を関わせながら、当てはまる絵を予想します。  学習で取り扱う絵をまとめたファイルを作成し、配付します。

○電子黒板だけでなく、1人1台端末を活用することで詳しく見ることができるので、より細やかな視覚的支援が可能となります！



電子黒板では見えなかったけど、
こんなところに人が描かれている！
この人は何をしているんだろう…

ここがPOINT



♪ 展開での活用場面

- ・ガルトマンの絵を見ながら、音楽と絵の特徴を関わらせて聴き確かめます。 教師が選んだ演奏者の音楽を、個人で聴くこともできます。その際、イヤホンなどの準備をお勧めします。

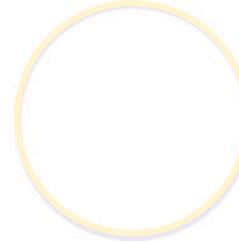
○学習で取り上げる音楽を、1人1台端末で聴くことができるように設定すると、自分のペースで何度も聴き確かめることができるので効果的です。

華やかで荘厳なお城が描かれているなあ。明るくダイナミックな音楽が作曲されているかも。



「古城」の音楽は、絵画のイメージより穏やかで静かな曲だなあ。速度が遅くて短調で作曲されているんだね。

ここがPOINT



♪ まとめでの活用場面

- ・絵を提示し、その絵と対応した音楽を聴かせながら、自分の考えを発表します。

4曲の「プロムナード」は、曲と曲をつなぐ役割をしていて、絵を表す音楽の曲想が変化しても、違和感なく聴くことができます。音楽を聴きながら絵を見ると、特に「テュルリー」は、絵の中の人たちが動き出すような感じがしてきます。ムソルグスキーは、聴いている人も一緒に絵画の世界へ導くように作曲したのだと思います。ガルトマンの思いを受けて作曲された「展覧会の絵」は、二人の共同作品といえると思います。

○他者の考えを、音声（聴覚）と画像（視覚）で味わうことができます。また、ペア、グループ、クラス全体で共有することも簡単にできます！さらに、他クラスや他学年、家庭との共有も期待できます！

